校長室だより

２０２２年４月１５日

校長　小崎（こさき）　功二（こうじ）

学校 HP

笑顔

人の前では，できるだけ笑顔でいたいと思っています。

不機嫌な表情をして溜息をつくのは，大抵誰かの前で，一人の時はしないものです。

幼い子供が迷子になった時，一人で迷いながら歩いているときや見知らぬ人に声を掛けられたときには泣いていなくても，母親に会えて顔を見ると，大声で泣き出すことがあります。つらくて泣くのではなく，甘えられる相手に自分の気持ちを分かってほしくて泣くのです。

そんな弱い心を，大人も皆持っているのだと思います。普段人間が見せる不機嫌な表情や態度は，結局，誰か相手がいて，その相手に対しての意思表示です。それは相手への敵意を表したり攻撃するためであったりすることもありますが，多くの場合，歪んだ好意や愛情，或いは，自己顕示欲が満たされない際などの，「言わなくても分かってほしい」「自分をもっと見てほしい」といった，素直になれずにすねた感情によるものです。宮城県の方言に「むつける（むんつける）」という言葉がありますが，そのような意味合いです。もしも無人島に一人で流されたとしたら，そこで「むつける」ことはしないでしょう。過酷な状況の中で厳しい表情にはなるでしょうが，相手に対してアピールするような嫌らしい不機嫌な表情とは明らかに違うと思います。

誰もが持っているであろう，そんな弱い心を，私も，もちろん持っています。相手に分かってほしいことがあるのに，はっきり言えずに黙り込んでしまったり，自分が苦しい時，相手に気付いてほしくて，つらそうな顔をしてみたり等々，数えればきりがありません。

しかし，日々の様々な人間関係の中で，そんな自分の弱さを自覚しながら，その弱さを見せないように注意していくことが相手に対する礼儀だと考えています。「親しき仲にも礼儀あり」と言われるように，家族や友人に対しても同様です。大切な人に対してはなおさら，自分が強くならなければと思います。

私たち教職員は職業柄，人と接することが多く，大人に対する礼儀としての笑顔はもちろん心掛けていますが，特に気を付けているのは，子供たちと接する時です。感受性が強く不安も多い小学生に対して，少なくとも，威圧的で不機嫌な表情は見せてはいけないと思っています。

学校生活には様々な場面があって，常に笑顔でいることはできませんが，どんなときでも子供にとって，「笑顔の記憶」が根本となるように，日頃から笑顔で接することを心掛けています。

笑顔は，自分が嬉しいときだけではなく，相手に対する思いやりの表情でもあります。「優しい笑顔」「悲しい笑顔」「力強い笑顔」など，状況により様々な意味や力を持っています。

保護者の皆様や地域の皆様と共に，郡山小学校の子供たちを笑顔で優しく包んでいけるよう，これからも努力いたします。

切り取り線

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと　など

2022 年 4 月 15 日（　）年（　）組 児童氏名

※匿名でも結構ですが，御連絡が必要な場合等を考え，記名していただけるとありがたいです。

※担任に御提出いただいても，校長室前のポストに直接入れていただいても，校長に直接手渡していただいても，いずれでも結構です。